

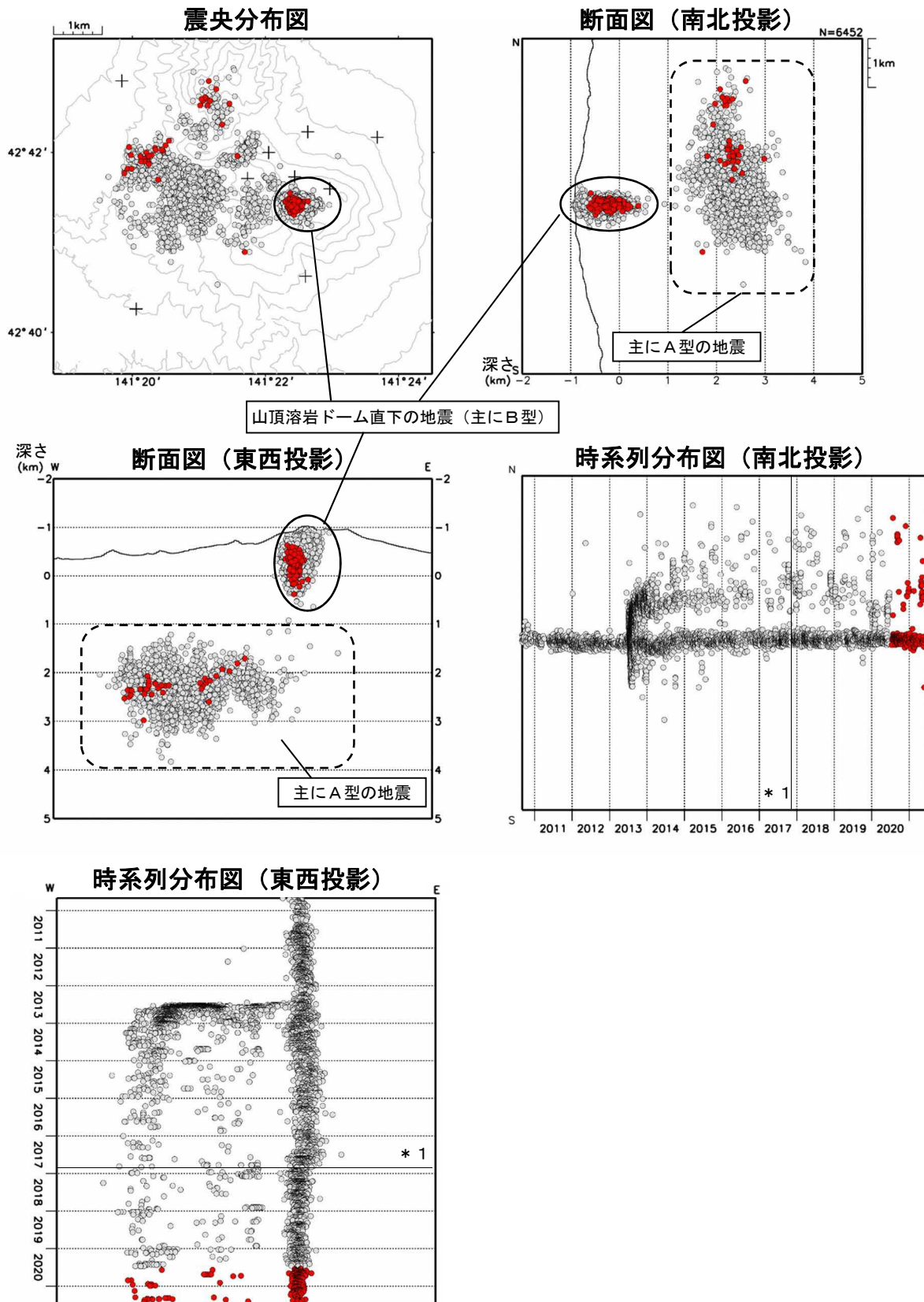


図6 樽前山 火山性地震の震源分布 (2010年9月~2021年6月)

○印：2010年9月~2020年6月の震源、●印：2020年7月~2021年6月の震源、+印：地震観測点
2017年10月31日 (*1) 以降、震源計算に利用する観測点を変更しています。

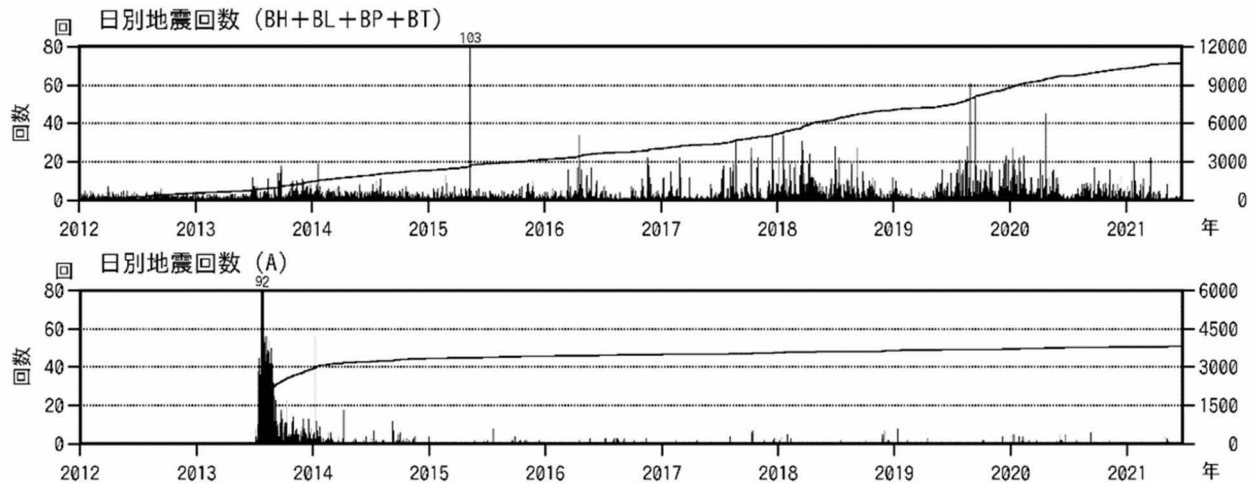


図7 樽前山 発生領域毎の地震の発生回数（2012年1月～2021年6月）

左軸：日別発生回数、右軸：発生回数積算

上：B型の地震（山頂溶岩ドーム直下の地震と考えられる）

下：A型の地震（主に図6の震央分布図及び断面図中の破線枠内の地震と考えられる）

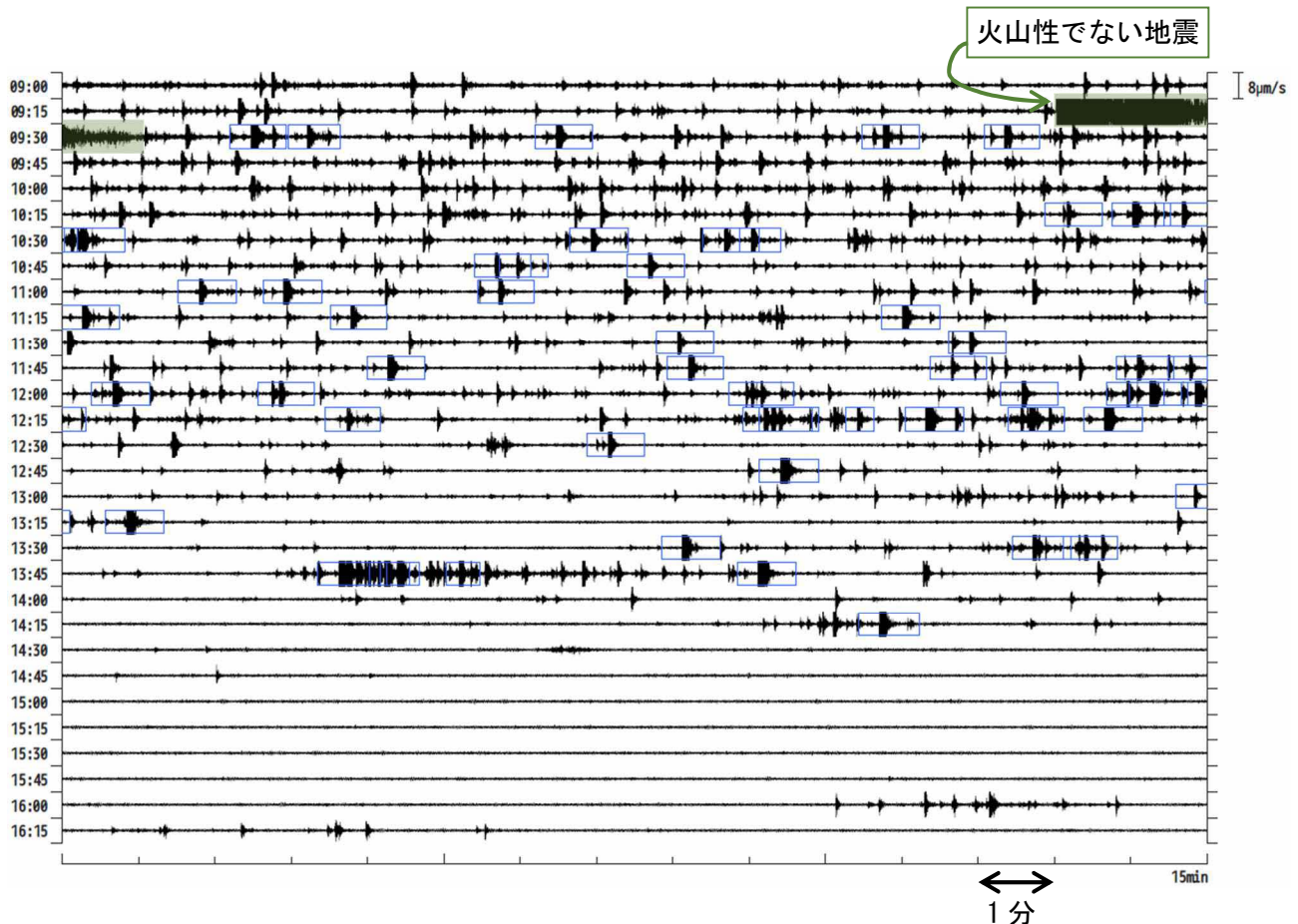


図8 樽前山 火山性地震の一時的増加（2021年3月9日09時00分～16時30分）

西外輪観測点における上下成分の速度波形記録

見やすさのために振幅の大きい部分をカットして表示

- ・ 3月9日9時台から火山性地震（青枠）が一時的に増加しました。
- ・ これらの地震の震源位置は、山頂溶岩ドーム直下と考えられています。

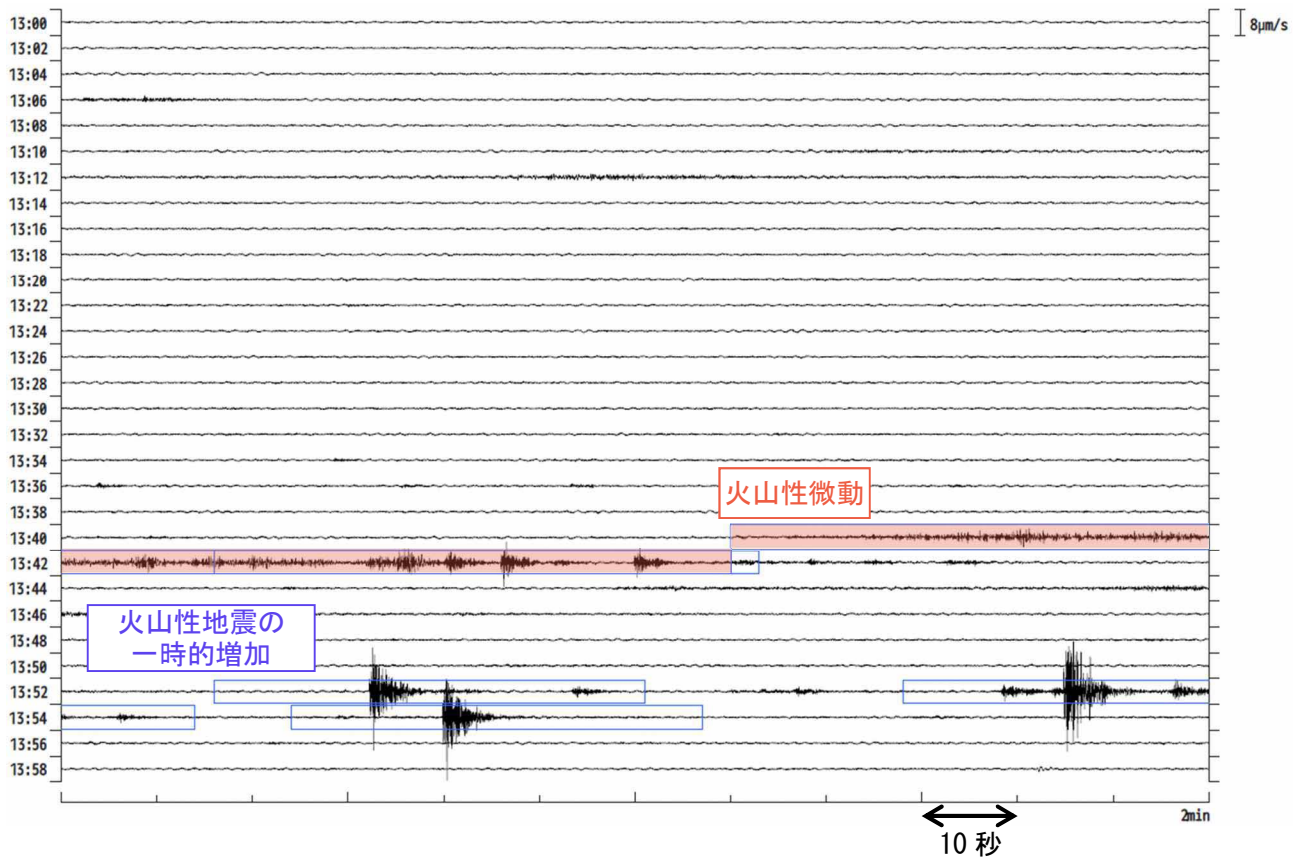


図9 樽前山 火山性微動の発生状況 (2021年3月18日13時00分~14時00分)

西外輪観測点における上下成分の速度波形記録

- ・ 13時41分から約2分間の火山性微動（赤で着色）が発生し、その直後に火山性地震が一時的に増加しました。
- ・ これらの微動及び地震の震源位置は、山頂溶岩ドーム直下と考えられています。

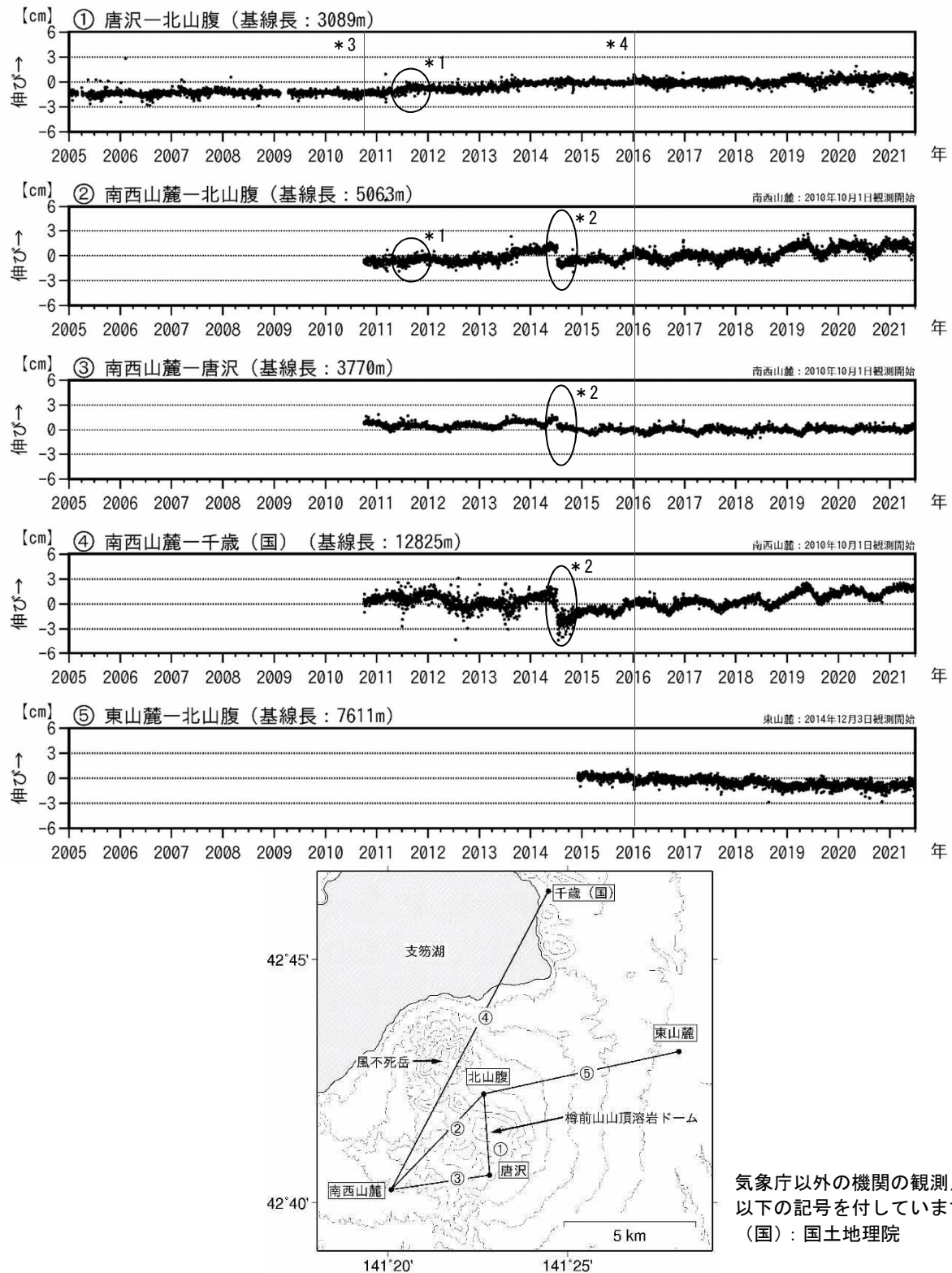


図10 樽前山 GNSS連続観測による基線長変化(2005年1月~2021年6月)及び観測点配置図

グラフ①~⑤は観測点配置図の基線①~⑤に対応しています。

グラフの空白部分は欠測を示しています。

①、②の楕円内の変動(*1)は、2011年7月の機器更新によるものです。

②~④の楕円内の変動(*2)は、2014年7月8日に発生した胆振地方中東部の地震によるものです。

2010年10月(*3)及び2016年1月(*4)に解析方法を変更しています。

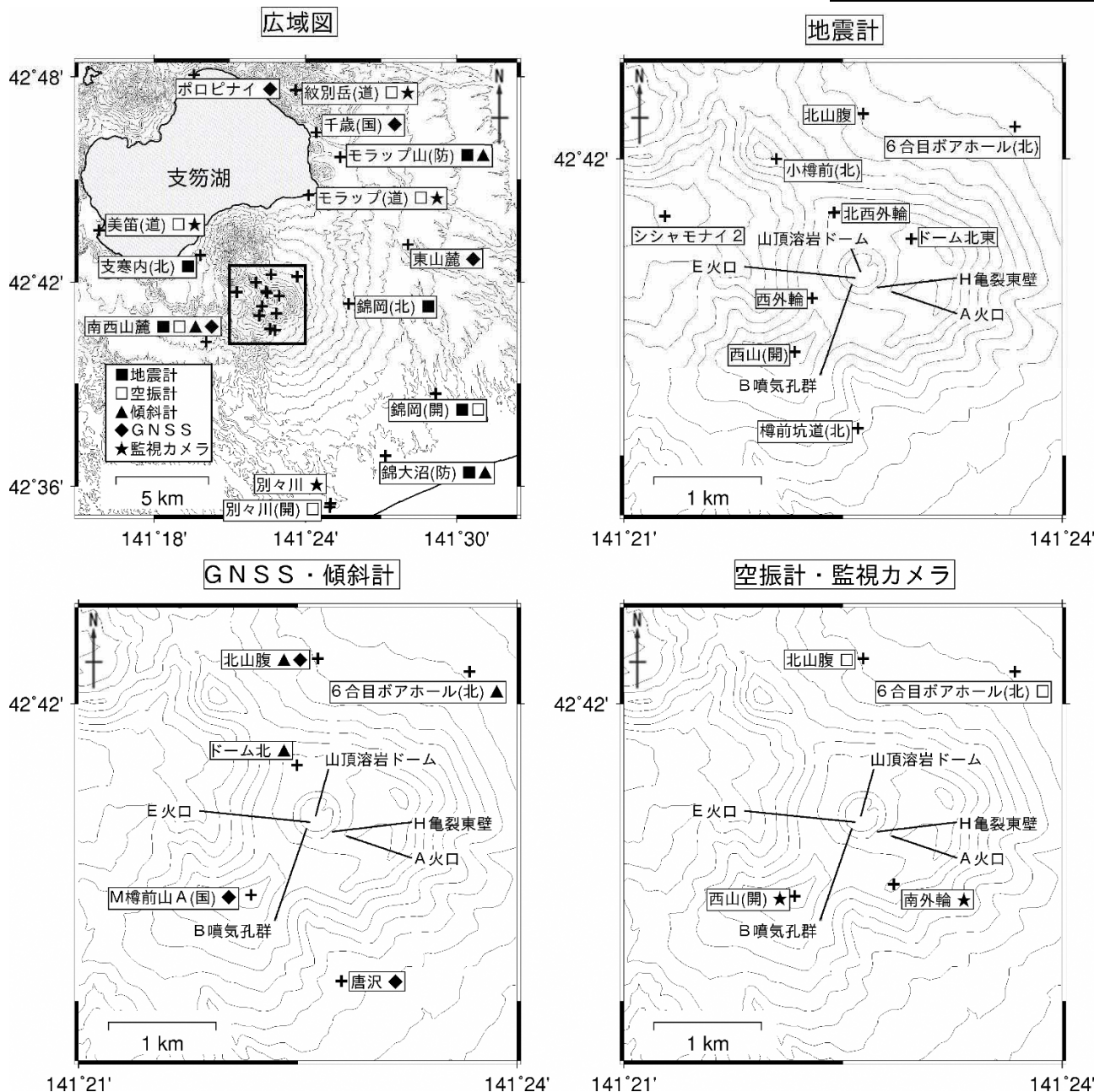


図11 樽前山 観測点配置図

各機器の配置図は、広域図内の太枠線で囲まれた領域を拡大したものです。

+印は観測点の位置を示します。

気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています。

- (開) : 国土交通省北海道開発局
- (国) : 国土地理院
- (北) : 北海道大学
- (防) : 国立研究開発法人防災科学技術研究所
- (道) : 北海道